

上級日本語学習者を対象とした  
即興スピーチの活動に関する一考察  
—ピア活動とテーマの分析を通して—  
A Study on Impromptu Speech  
for Advanced Japanese Learners:  
Analyzed through Peer Activities and Speech Themes

澁谷 きみ子

要 旨

近年、あらゆる場面でコミュニケーション能力の必要性が増しており、日本語教育における口頭表現でも総合的な運用能力が求められている。同志社大学日本語・日本文化教育センターの上級レベルの口頭表現では、口頭表現能力の向上のために、独話型の話す練習として即興スピーチを取り入れている。即興スピーチは、話す時間が短いこともあり、初級レベルから中級レベルで取り入れられることが多いが、限られた時間内で簡潔に話す能力は上級レベルにこそ不可欠だと言える。

そこで、本稿では、この即興スピーチが上級レベルの口頭表現の運用能力を高めるために、どのような効果があるか、またどのような取り組みが効果的であるかを探るため、即興スピーチの練習による構成に対する意識の変化、事前準備とピア活動の取り組み、テーマによる影響の3点から分析を行った。その結果、即興スピーチによって、構成を考えながら話す意識の向上が見られた。また、事前準備やピア活動の効果は認められるが、特にピア活動ではコメントのし方において教師の支援が必要であることがわかった。さらに、取り上げるテーマは対立のあるもののほうが自分の立場を明確に示しやすいことと、日本語学習者の専門や関心のあるテーマは学習者自身の見識を深めるのに役立つことが確認できた。

キーワード

日本語 口頭表現 即興スピーチ 苦手意識 論理的な話し方 ピア活動

1 はじめに

近年、スマートフォンの普及で人々の話し言葉を用いた文字による会話は増えたが、口頭コミュニケーション能力が向上したわけではない。実際に、日本語教育において能動的な口頭コミュニケーション能力の重要性は増しており、日本語学習の対象者である留学生からも話すことに対して苦手意識はあるものの、上達したいという声を聞く。一方で、日本語学習者の場合、レベルが上がるほど話す力は身につけていくが、

かえって冗長で要領を得ない話し方になることもある。

このような状況を考量すると、日本語教育における口頭コミュニケーションでは、論理的でわかりやすい話し方を習得する必要がある。即興スピーチは、この論理的でわかりやすい話し方のためのトレーニングとしてビジネス・シーンでも活用されており（大嶋, 2013）、周到的な準備を要するスピーチやプレゼンテーションだけでなく、ディスカッションやディベートの場面でも役立つものである。

同志社大学日本語・日本文化教育センター<sup>1</sup>（以下、日文センター）の上級レベルの口頭表現の科目では、話す練習の一環として即興スピーチを取り入れている。日文センターの上級レベルはさらに3つのレベルがあり、上級前期レベル、上級後期レベル、超上級レベルに分けられる。即興スピーチは、大枠として上級前期レベルでは情報提供型あるいは説明型の1分スピーチ、上級後期レベルでは意見表明型の2分スピーチ、超上級レベルでは問題解決型の3分スピーチを行っている。

筆者は2016年度より上級後期レベルの口頭表現を担当しており、2分の意見表明型の即興スピーチを話す練習として実践している。学習者からは、「最初は緊張したが何度も繰り返すことで話すことに慣れてきた」、あるいは「即興スピーチの毎回のトピックで様々な日本の社会問題について知ることができた」といった感想も聞かれ、肯定的に捉えられていることを実感している。即興スピーチの研究には、ピア活動に着目したグエン（2009）や聞き手を意識した指導を実践した樽田（2000）、即興スピーチの内容の具体性に言及した工藤（2014）などがある。しかしながら、これらはいずれも中級レベルの日本語学習者を対象としたものであり、管見の限りでは上級レベルでの即興スピーチの研究は見当たらない。

そこで、本稿では、上級レベルの日本語クラスにおける口頭表現の科目に取り入れた即興スピーチに関するアンケート調査と即興スピーチの録画を分析し、上級レベルの即興スピーチの意義について考察する。

## 2 本研究の位置付け

### 2.1 即興スピーチの概要

スピーチには、その場で即座に行うインプロンプツ・スピーチ（*impromptu speech*）と、あらかじめ準備してから行うプリペアード・スピーチ（*prepared speech*）がある（荒木他, 2004）。樽田（前掲書）は、プリペアード・スピーチ、すなわち準備されたスピーチでは、話し手は原稿の内容をいかに聞き手に伝えるかではなく、上手に言えるかどうか集中しがちであると述べている。つまり、プリペアード・スピーチでは十分時間をかけて準備をするが、実際のスピーチでは正しい文法で正確に発音することに専念する傾向があるということである。一方、インプロンプツ・スピーチ、すなわち即興スピーチは、準備時間が少ないため、引用やデータを十分に吟味することができない。それゆえ、即興スピーチは、話し手の考え方や日ごろの物事への取り組み方、知識や

関心の深さや理解力などが表れやすい(荒木他, 前掲書)。

即興スピーチは1分から3分程度のもが多く、話を簡潔にまとめる能力を鍛えることによって、論理的な話し方を養うことができる。具体的には、即興スピーチは与えられたテーマについてその場でいきなり行うため、話のポイントを「導入・本論・まとめ」の3つに、素早くまとめる構成力を身につける必要があり、リハーサード・スピーチよりも短時間の緊張を強いられるが、自分の考えを簡潔にまとめて言葉にする力や話す度胸を向上させることにもつながる。また、即興スピーチが目指す論理的でわかりやすい話し方は、スピーチやプレゼンテーションなどにも応用でき、アカデミックな場面ではもちろん、留学生が日本の社会に出ても必要とされるスキルであり、社会参加の大前提となるコミュニケーション力であると言える。

## 2.2 スピーチ不安 (Speech Anxiety) と苦手意識

スピーチは、公的な場で、話し手の意図が明確に打ち出され、その目的を達成するために、制限時間内で聞き手に情報を伝えるもの(荒木他, 前掲書)である。このスピーチに関する研究は、様々な角度からアプローチされており、その実践事例も多岐にわたる。しかし、口頭表現を指導してきた経験から、口頭表現能力向上の第一歩は学習者の話すことへの苦手意識を克服することであると考える。そこで、ここでは特にスピーチに対する苦手意識、つまり不安を軽減させたり自信を持たせたりするためにどのような方法が適切なのかについて見ていく。

まず、岡部(2002)は、口頭発表場面のスピーチ不安について日本語母語話者と上級日本語学習者および中上級日本語学習者にアンケート調査を行い、日本語学習者のスピーチ不安は文法や発音など「正しい日本語」に対する不安、つまり第二言語不安にあると述べている。そして、そのスピーチ不安を軽減するために事前準備の工夫と振り返りの機会を持つことを提案している。また、藤木他(2010)は、スピーチに対する自信について調査し、聞き手に対して話しかけること、ハキハキとした話し方、筋道を立てて話すこと、ビデオ撮影や録音による振り返りと講師のコメントが自信に結びつくことを指摘している。この中で、筋道を立てて話すことができれば苦手意識の克服につながるという結果から、論理性を養うことを目的として意見表明型のインプロンプツ・スピーチを取り入れている。

一方、Price(1991)は、人前で話すことに対する不安を取り除くために、小グループや1対1の活動を取り入れることを提案している。日本語教育の中でも、鹿目(2014)は、スピーチ上達に向けた授業を实践し、ピア・レスポンスが学習面と心理面で良い影響があること、ビデオ撮影がスピーチに対する意欲をかきたてること、さらに他者評価によってスピーチを客観的に見られる効果について言及している。また、グエン(前掲書)は、即興スピーチにおけるピア活動の影響を考察し、ピア活動が不安軽減に役立つこと、具体的な指導を伴うアドバイスがスピーチに反映されやすいことを指摘し

ている。

このようなスピーチ不安や苦手意識に関する研究結果から、第二言語不安を克服するために事前準備や振り返りにピア活動を取り入れることが有効であることがわかる。また、論理的な話し方を身につけることが自信につながることから、意見表明型の即興スピーチを効果的に取り入れた活動は、スピーチ不安の軽減に寄与するものであると考える。

### 2.3 本研究の目的

意見表明型の即興スピーチが論理的な話し方の改善に役立つことから、本研究では、即興スピーチによる「構成」に対する意識の変化を取り上げ、どのような気づきがあったかを探る。また、スピーチの事前準備やピア活動がスピーチ不安の軽減に効果があることは既に報告されているが、即興スピーチの場合でも実際の日本語教育の授業で扱われる際、若干の準備時間を含めることもある。例えば、グエン（前掲書）では、即興スピーチの準備としてグループ内での質問作成に5分、それをクラスで共有する時間に5分を設けている。今回の上級レベルでは時事問題に関する意見を述べることから、手元のスマートフォンで簡単に調べられる範囲で準備する時間と二人でチェックし合うピア活動にそれぞれ10分を組み込んだ。そのため、この事前準備とピア活動が有効に運用されていたかを精査する。さらに、上級レベルを対象とした意見表明型の即興スピーチでは、取り上げるテーマが意見を大きく左右するため、テーマによる意見の述べ方に焦点を当てて見ていくこととする。

以上のことから、本研究では、次の3点について明らかにし、ピア活動を取り入れた即興スピーチの活動について考察することを目的とする。

- ①即興スピーチの練習によって、話の構成に対する意識が高まったか。
- ②即興スピーチの事前準備の時間は適切だったか。また、ピア活動の取り組みは効果的に行われたか。
- ③即興スピーチのテーマは、内容にどのような影響を与えたか。

次章では、その実践を報告する。

## 3 実践概要

### 3.1 上級後期レベル「口頭表現 A (Ⅷレベル)」の位置付け

本研究の口頭表現の科目である「口頭表現 A (Ⅷレベル)」は、日文センターの上級後期レベルに該当する。日文センターの日本語科目には、短期留学生を対象とする基幹科目で週5回行われる総合クラスの他に、週1回行われる8つの技能別クラスがある。上級後期レベルの技能別クラスの内容を表1に示す。

技能別クラスは全て選択科目であり、学部留学生は学部によって決められた一定の日本語科目の単位を取得する必要がある。一方、短期留学生は留学プログラムや協定の種類によって必要な単位は異なるが、一定の単位の日本語科目を取らなければならない。授業は半期完結型で、15回実施される。

上級後期レベルの口頭表現は、「口頭表現 A」と「口頭表現 B」に分かれており、「口頭表現 A」は独話型 (monologue) のスピーチやプレゼンテーションなどの口頭表現能力を、「口頭表現 B」は対話型 (dialogue) のディスカッションやディベートなどの口頭表現能力をそれぞれ伸ばすことを目的としている。

表 1 上級後期レベルの技能別日本語科目

科目名	内容
読解 A	新聞記事等時事的な文章、説明文等を用い、情報をすばやく、正確に読み取る練習を行う。
読解 B	物語やエッセイ、詩などの文学作品を味わう。
語彙	名詞や動詞の連語、慣用句、漢語等を適切に使い、高度な表現ができるよう練習を行う。
文章表現	レポートや小論文を作成するための知識や方法を学ぶ。 (2500字程度の小論文を作成)
口頭表現 A 独話型 (monologue)	様々なテーマで、スピーチやプレゼンテーションを行う。
口頭表現 B 対話型 (dialogue)	様々なテーマでディスカッションやディベートを行う。
文法	上級文法が適切に使えるよう、復習を行う。
ビジネス日本語 D	ビジネス場面で出会う日本語やビジネスマナーを学ぶ。

(『2021 日本語・日本文化教育科目 履修の手引き』に基づき筆者作成)

### 3.2 上級後期レベル「口頭表現 A」の履修者概要

筆者が担当する 2021 年度秋学期 (2021 年 9 月～2022 年 1 月)、上級後期レベルの「口頭表現 A」の授業の履修者は、新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の影響により若干名にとどまり、学部留学生が 3 名 (男性 2 名、女性 1 名)、短期留学生<sup>2</sup>が 3 名 (女性 3 名) である。国籍は中国 4 名、韓国 2 名である。ただし、2021 年度秋学期は新型コロナウイルス感染症の対応により、一部日本に入国できない留学生がいたため、全員が同じ授業形態というわけではなく、対面授業とオンライン授業で同時進行するハイブリッド授業の受講生が 5 名、オンライン授業のみの受講生が 1 名である。ハイブリッド授業とオンライン授業は Web 会議システム Zoom を用いて行ったが、授業内容、進度ともに対面授業の場合と同様に実施した。

### 3.3 2021年度秋学期上級後期レベル「口頭表現A」の授業の流れ

上級後期レベルの「口頭表現A」は、独話型の口頭表現能力を伸ばすことを目的としており、スピーチ発表とプレゼンテーション発表という2つの発表会が組み込まれている。この2つの発表会の準備時間を活用し、話す練習として計8回の2分の即興スピーチを行った。そして、最終の即興スピーチを期末テストとした。コース全体の枠組みは表2の通りである。

表2 上級後期レベルの「口頭表現A」のコースの枠組み

授業回	内容	即興スピーチの扱い
第1回～第5回	スピーチ発表準備	(練習) 即興スピーチ4回
第6回～第7回	スピーチ発表会	
第8回～第12回	プレゼンテーション準備	(練習) 即興スピーチ4回
第13回～第14回	プレゼンテーション発表会	
第15回	期末テスト	(最終) 即興スピーチ

### 3.4 即興スピーチの手順

即興スピーチは出されたテーマについて即座に行うのがルールであるが、この上級後期レベルで扱う即興スピーチのテーマが時事問題であることから、自分の意見を補強する根拠をスマートフォンで調べたり、アウトラインを作成したりするために事前準備として10分を設けた。さらに、2.1で述べた第二言語不安を軽減しスピーチに対する自信を持たせられるように、練習のためにペアでコメントし合うピア活動としてさらに10分の時間を取った。

まず、第1回目の授業で、即興スピーチの進め方、および構成と表現について説明をした。特に、この上級後期レベルは2分の意見表明型の即興スピーチであることから、「結論(P)」→「理由(R)」→「裏付け(E)」→「まとめ(P)」という4段階で話を論理的に組み立てるPREP法という手法(大嶋, 前掲書)を基本の構成として紹介した。

即興スピーチのテーマは主にニュースを取り上げ、ニュース映像およびパワーポイントを用いて紹介した後、専門用語の解説や学生からの質問を受け補足説明を行った。その後、事前準備として10分間で即興スピーチ用シート(資料1参照)を用いてアウトラインを作成するが、原稿のような文章ではなく、できるだけ箇条書きにするよう指導した。スピーチ用シートの完成後、ペアで10分間の練習をし、わかりにくかった内容や語彙、不明瞭な発音などを指摘し合うピア活動を行った。そして、最後に一人ずつ2分のスピーチを発表し、質疑応答と教師のフィードバックを行った。教師のフィードバックは、大きく内容、話し方、見せ方の3つの観点から行ったが、オンライン授業参加の学習者に対する見せ方のコメントは、「できるだけ(パソコン内蔵の)カメラ目線を意識する」ことだけにとどめた。

### 3.5 調査方法

ピア活動を取り入れた即興スピーチについて考察するために、コース開始前に行ったアンケート調査(以下「事前調査」、資料2参照)とコース終了後のアンケート調査(以下「事後調査」、資料3参照)、および即興スピーチの録画を用いることとした。

## 4 結果と考察

### 4.1 スピーチの構成に対する意識の変化

まず、学生の話す際の構成に対する意識の変化を見ていく。事前調査と事後調査をもとに、構成を考えながら話すかどうかを1(非常にやりにくい)から5(とても良い)という5段階で評価してもらい、その得点の平均を算出したグラフを作成した(図1参照)。



図1 構成を考えながら話す

事前調査では、この「構成を考えながら話す」が3.0だったのに対し、事後調査では5.0に上昇している。調査対象者は上級レベルの日本語学習者であることから、相応に順序の立て方は身に付いていると思われるが、コース全体を通して話す内容を総合的にデザインすることの重要性を自覚し、自信を持つようになったことが確認できた。一方、コース全体で学んだ感想には、「その場で、何を考えているかを話せる能力を伸ばしてくれた」、「短時間で自分の観点をまとめて伝えるのはやはり難しいことだ。そこで、まず『賛成』もしくは『反対』の態度を決め、それから、1、2点の支持するポイントを考える方法を学んできた」とのコメントがあった。このことから、とりわけ即興スピーチの練習によって、「構成を考える」意識が高まったと推測される。事実、最初の頃は10分間では準備時間が足りず、ピア活動の練習時間に食い込む様子も見られたが、コースの後半になると早くに自分の立場を決めて構成を考えることに集中したり、一人で練習したりする学生もいた。このように意見表明型の即興スピーチの練習は、自分の立場を明確に示すことの必要性や自分の意見に説得力を持たせる根拠をどのように提示するかという話の構成力を意識させるのに役立つものであると考えられる。

## 4.2 即興スピーチの準備と練習

### 4.2.1 即興スピーチの準備

即興スピーチの練習では、10分の準備時間で「即興スピーチ用シート」に書き込んでもらった。今回の即興スピーチは意見表明をすることが目的であり、その理由とともに根拠や具体例を必要とするため、この準備時間にはスマートフォン等でインターネット情報を探すことを推奨した。この10分の準備時間についての1（少なすぎる）から5（ちょうどよい）という5段階評価の平均は、4.5で概ね適切であったと考えられるが、「もう少し時間があればよかった」（2名）というコメントもあった。その一方で、「10分で情報を調べて、構成や流れについて考えることができ、ちょうどよい」「準備時間が長すぎれば即興の感じが弱くなる」といったコメントもあり、集中して短時間で準備する時間としては10分程度が適正であったと考える。一方で、練習の回数を重ねることで、準備も慣れてくることから、5分程度まで短くすることも可能ではないかと思われる。時間を徐々に短縮することで、準備にも緊張感が生まれ、即興スピーチの特長をより意識できるようになるのではないだろうか。

また、コース全体の感想として「前より考える能力もデータを調べる能力も日本語を運用する能力も上がったと思う」「様々なテーマについて調べ、その結果をもとに自分の意見を発表することでアウトラインを作ることだけでなく、日本語力のスキルアップにもつながった」「色んなテーマについて考えてみることで、よかった」というコメントもあり、時事問題を取り上げた意見表明型の即興スピーチでは、情報収集と構成を練る時間として事前準備が大いに役立ったと考える。

### 4.2.2 即興スピーチのピア活動

即興スピーチ準備後の練習を兼ねてコメントし合うピア活動は、学習者同士がペアで行うが、今回は人数の加減もあり教員が参加することもあった。このピア活動についての1（全く役に立たなかった）から5（とても役に立った）という5段階評価の平均は4.2であった。具体的には、「相手の意見も参考にできた」「本番の予行練習ができるのは非常に助かる」「アドバイスや意見を話すことができよかった」というコメントがあり、ピア活動によって他者の意見を参考にしたり、アドバイスしたりすることで自分自身のスピーチの改善につながるリハーサルとして機能していることがわかった。しかしながら、一方で、「（先生と違って）意見をくれない」「（先生とペアを組んだ経験から）クラスメートだと内容を見直すことができない」といったコメントも見られた。今回、少人数だったため教員がピア活動の相手として参加することが多かったが、それゆえにクラスメートとの差が浮き彫りになったようだ。

学習者同士によるピア活動では、教師はできるだけ学習者の活動を妨げないようコメントは控えるようにしていた。しかし、教師はファシリテータとして、助言するポイントやコメントのし方を示しつつ、学習者のピア活動に積極的に働きかける必要が



あると感じた。教師の支援があれば、その教師のアドバイスなどをモデルとして、ピア活動がより効果的なものになると思われる。

### 4.3 即興スピーチの内容

#### 4.3.1 即興スピーチのテーマ

本コースの即興スピーチでは、できるだけ直近のニュースを取り上げ、そのニュースをもとにしたテーマで意見表明を行えるよう進めている。2021年度秋学期に取り上げた各テーマと学生の1（非常にやりにくい）から5（とても良い）という5段階評価の結果は、表3の通りである（出所の詳細は資料4参照）。

テーマに関しては全体的に良かったと評価しており、「非常にタイムリーで身近なテーマだと思う」、「他の人の意見も聞くことができて良かった」、「他の国の状況もいろいろわかったし、今まで気づかなかったことも調べてわかるようになった」という感想があった。

また、「正解が一つではないテーマは自由に自分の意見を述べることができ、やりやすいと感じた」、「『賛成』と『反対』という検討の余地がある議題だし、近年出てきたことであり、現実味がある」というコメントもあり、学習者がテーマについて自分の意見を述べる際に、どのような立場で取り組むかを意識していることが窺える。

さらに、「もともと興味を持っていたテーマは、準備しやすかった」、「ずっと関心を持っていたことでもあるから、自分の知識を補足することができた」とのコメントから、学生は日ごろから時事的かつ普遍性のあるテーマに関心を寄せているものと推測される。加えて、「自分の学んだ知識と共通していて、その知識を実践できて、自己肯定感が高まった」というコメントがあり、このことは、学生が専門の学びの中で培ってきた知識を生かせるような場を即興スピーチによって提供できたことを示唆していると言えよう。

このように見ていくと、即興スピーチで取り上げるテーマは、タイムリーでありつつも、日本特有もしくは世界共通の普遍的な社会問題を取り上げる必要があるだろう。学部留学生であれ短期留学生であれ、日本との接点の中で専門分野を学んでいる。一方で、異なる国の状況との違いなどを知ることは、テーマを掘り下げ、理解を深めることにつながる。したがって、教師は学習者の学びに役立つ、グローバルな問題を内包するテーマを常に意識しながら情報収集を行う必要がある。

表 3 即興スピーチのテーマと評価

テーマ	出所	5段階評価
①ワクチンパスポート	テレ朝 news	4.8
②ペットの飼育放棄	NCC 長崎文化放送 日テレ NEWS24	4.8
③顔認証カメラの検知対象	NHK NEWS WEB	4.8
④出生前診断	FNN プライムオンライン	4.8
⑤つながらない権利	フジテレビ「ワイドナショー」録画	4.7
⑥安楽死	FNN プライムオンライン <sup>3</sup>	4.8
⑦漫画海賊版サイト	NHK NEWS WEB	4.8
⑧外国籍住民投票	NHK NEWS WEB	4.8
⑨少年犯罪の実名報道	NHK NEWS WEB	5.0

#### 4.3.2 即興スピーチのテーマと構成

4.1 で即興スピーチの「構成」に対する意識の伸びが見られたことに触れたが、ここでは、実際に学習者が各テーマについて、どのような構成で即興スピーチを行ったかを見ていく。即興スピーチの録画をもとに学習者の意見表明の構成をまとめたものが、表 4 である。構成は大きく PREP 型、反論反駁型<sup>4</sup>、提案型に分けている。PREP 型は、「結論→理由→裏付け→まとめ」で組み立てられたものであり、反論反駁型は「意見→理由→反論→反駁」、提案型は「問題点→解決策」の構成を取るものである。その他 PREP 型に条件を加えているスピーチは、「条件付き」を付記している。また、1 つのテーマで PREP 型に反論反駁や提案を追加しているスピーチは、併記した。

全体的に PREP 型の構成が多いが、第 3 回「ペットの飼育放棄」は、賛否を問うというより、解決策を模索するテーマであったため、提案型の構成が多かったのではないかと推測される。また、即興スピーチの回数を重ねることで、PREP 型を基本としつつ反論反駁や提案を加えたり条件を付けたりすることで、より内容が濃いものとなっている。

表 4 即興スピーチの構成

テーマ	学習者					
	L1	L2	L3	L4	L5	L6
①ワクチンパスポート	PREP	提案	※ 現状説明	PREP	反論反駁	PREP
②ペットの飼育放棄	提案	提案	提案	提案	提案	PREP
③顔認証カメラの検知対象	PREP	PREP	提案	PREP	反論反駁	PREP
④出生前診断	※ 現状説明	PREP 反論反駁 提案	PREP 反論反駁	PREP	PREP	PREP 提案
⑤つながらない権利	PREP	PREP 提案	PREP 提案	PREP	PREP	提案
⑥安楽死	PREP 条件付き	PREP 条件付き	PREP 提案	PREP	PREP	PREP 反論反駁
⑦漫画海賊版サイト	※	PREP 反論反駁	提案	PREP	反論反駁	提案
⑧外国籍住民投票	PREP	PREP 反論反駁	PREP	PREP 条件付き	PREP	PREP
⑨少年犯罪の実名報道	PREP	PREP 反論反駁	PREP	PREP	PREP	PREP

※は意見がなかったもの、欠席などで参加できなかったもの

以上のことから、「⑥安楽死」や「⑧外国人住民投票」「⑨少年犯罪の実名報道」のような是非を問うテーマの場合は、PREP型で意見を述べる傾向があることがわかった。また、即興スピーチを繰り返し行うことで、単純なPREP型にとどまらず、より複雑な構成を可能にすることが確認できた。PREP型は非常にわかりやすい構成であるが、反論を加えることで説得力が増したり、提案を加えることで問題点を検討したりすることができる。つまり、このような構成の重なりは、学習者がテーマに対する理解をより深めたことの証左であると言えるだろう。

今回、即興スピーチの構成で状況説明(L3のテーマ①、L1のテーマ④)に終わったものがあったが、これは導入段階でニュースに関する情報が多すぎたことによるものではないかと思われる。なぜなら、準備段階で与えた情報を処理し、整理して説明するだけに時間を取られてしまっていたからである。そのため、導入段階では1～2分のニュース以外の補足説明をできるだけ短くするために、提供する情報を取捨選択し必要最低限にとどめる必要があると考える。

## 5 まとめと今後の課題

### 5.1 まとめ

今回の研究結果からわかった考察をまとめると、以下のようになる。

①即興スピーチの練習により、「構成」を意識するようになった。特に、意見を述べ

る際の自分の立場を素早く決定することができるようになった。

- ②即興スピーチの事前準備の時間は短いほうがいいが、今回のような時事問題をテーマにする場合、10分程度から始め、慣れて要領をつかむことができるようになれば時間を短縮することも可能である。また、ピア活動は一人で発表するための予行練習として役立つものの、学習者同士でコメントすることが少ない場合もあるため、教師がコメントのし方を支援する必要がある。
- ③即興スピーチのテーマは、賛否を問うテーマのほうが自分のスタンスを決めやすく、PREP型で組み立てやすい。また、学習者の専門分野を内包し、日本および世界で起こっているタイムリーな社会問題が、学習者の興味や関心を引き付ける。

即興スピーチを繰り返し練習することで、話すことへの自信が付き、立場を明確にして意見を述べることや構成を意識することができるようになることが確認できた。このことは、上級レベルの日本語学習者が論理的に話すことへの第一歩になると考える。とりわけ、明快さを欠いた冗長な話し方が認識できていない学習者にとっては、時間が制限されることで簡潔に話すための訓練にもなる。即興スピーチによって、論理的かつ簡潔に自分の言葉で話すことの重要性を学習者自らが気づき話すことへの自信が持てれば、日常的な場面はもちろんのことアカデミックな口頭表現活動にも生かされ、さまざまな場面で相互理解を促進することにもつながるだろう。十分に時間をかけて準備するプリペアド・スピーチと異なり、即興で話す場合は自分の内側からあふれる生き生きとした言葉で話すため、このことが聞く人の心に届くのではないだろうか。

また、日本語教育の現場では科目にかかわらずピア活動があらゆる場面で取り入れられているが、即興スピーチの練習段階では、お互いに建設的なアドバイスをし合える関係作りが必要である。そのためにも、教師がファシリテータとして、必要な場面で問い掛けたりコメントしやすい環境を提供したりする必要がある。

一方、即興スピーチの構成は、そのテーマに左右されることもある。教師は、学習者の専門分野や興味関心事を把握し、常に社会問題を俯瞰しながら、即興スピーチで取り上げるテーマを精査することが求められる。ただし、タイムリーな社会問題は、本コースで行うスピーチ発表およびプレゼンテーション発表のテーマと重なる可能性もあるため、当日のテーマを複数用意しておくなどの周到な準備が必要である。

## 5.2 今後の課題

今回は調査対象者が6名と少なかったため、全体の傾向を示しているとは言い難い。今後、より多くの学習者を調査することで、即興スピーチの効果について明らかにする必要があると考える。また、本研究では、即興スピーチの練習が実際にスピーチ発表やプレゼンテーション発表にどのような影響を与えたかについては言及することが

できなかった。それぞれの録音・録画の分析、および学習者へのフォローアップ・インタビューを通して、即興スピーチの効果をさらに検証していきたい。

さらに、今回、即興スピーチの構成というマクロ視点での考察を行ったが、その構成を形作るミクロ視点での分析は行っていない。聞き手にとってわかりやすいスピーチは、スピーチの構造を示す言葉である、サインポスティング（これから話す内容に番号や見出しを使って提示すること）、ナンバリング（話す項目に区切りや順序、番号をつけること）、ラベリング（話す項目に見出しや名称をつけること）が必要不可欠である。これらの構造を示す言葉が過不足なく適切に使うことができているかなどを調査することで、論理的なスピーチ展開のあり方について明らかにしていきたい。

## 注

- 1 同志社大学日本語・日本文化教育センターでは、留学生を対象に「日本語・日本文化教育科目」を設置しており、日本語科目および、日本事情科目と国際事情科目を提供している。
- 2 ここでの短期留学生は、大学間協定による交換留学生と日文センター学部間協定による交換留学生、および国費留学生を指す。
- 3 今回授業で扱った FNN プライムオンライン「ニュージーランド安楽死合法化へ 国民投票で賛成多数」のニュースは、2020年10月31日に更新されたものであるが、実際に（合法化が）施行されたのが2021年11月であり、授業での使用年月と一致していたため取り上げた。
- 4 「反論反駁型」は、まずテーマに対する自説を述べ、その理由を説明した後、自説に対する反論に触れ、その反論が妥当ではないことを論じる構成を取るものである。具体的には、「～と考えます（自説）」「なぜなら～からです（理由）」「確かに、～（反論）」「しかし、～（反駁）」のような表現で展開する。

## 参考文献

- 荒木昌子・亀田照子・尾関桂子・大道卓・甕克己・山本薫（2004）『口頭表現ワークブック—自己表現をみがく』じっきょう専門基礎ライブラリー。
- 大嶋友秀（2013）『話すスキル up! すぐできる! 論理的な話し方』日本能率協会マネジメントセンター。
- 岡部悦子（2002）「口頭表現場面におけるスピーチ不安について」『講座日本語教育』第38分冊 早稲田大学日本語研究教育センター，pp.125-148.
- 鹿目葉子（2014）「中上級学習者のスピーチの上達に向けた授業とは—ピア・レスポンスと評価活動を取り入れた試みから—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第11号，pp.51-60.
- グエン・ソンランアイン（2009）「即興スピーチにおけるピア活動の影響—ハノイ大学での『話

- す授業』の改善を目指して―『日本言語文化研究会論集』第 5 号, pp.195-222.
- 工藤嘉名子 (2014) 「1 分スピーチに求められる『具体性』とは何か―問題解決型のスピーチの場合―」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』40 号, pp.1-14.
- 樽田ミエ子 (2000) 「実践報告―中上級学習者のための聞き手を意識したスピーチ指導の試み―即席スピーチと評価スピーチ」『東海大学紀要 留学生教育センター』20, pp.45-55.
- 藤木美奈子・前川志津・勝又恵理子 (2010) 「スピーチに対する自信は何によってもたされるか―授業内容との関係から―」『Obirin today : 教育の現場から』10, pp.49-64.
- Price, M.L. (1991) *The Subjective Experience of Foreign Language Anxiety: Interviews With Highly Anxious Students*. In Horwitz, E. K., and Young, D.J. (Eds.), *Language Anxiety: From Theory and Research to Classroom Implications*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall, pp.101-108.

### 参考 Website

- 同志社大学日本語・日本文化教育センター「2021 日本語・日本文化教育科目 履修の手引き」  
[http://cjl.c.doshisha.ac.jp/img/about/curriculum/r\\_guide\\_tebiki2021/all\\_tebiki2021.pdf](http://cjl.c.doshisha.ac.jp/img/about/curriculum/r_guide_tebiki2021/all_tebiki2021.pdf)  
(最終閲覧日 2022 年 2 月 11 日)

### 資料 1 : 即興スピーチ用シート

はじめの言葉
↓
内容
↓
終わりの言葉

## 資料2：事前アンケート調査

口頭表現能力について				
(1) 人前で話す				
自信がない				自信がある
1	2	3	4	5
(2) 発音				
自信がない				自信がある
1	2	3	4	5
(3) 自分の意見を述べる				
自信がない				自信がある
1	2	3	4	5
(4) 話の構成				
(構成を) 考えずに話す			(構成を) よく考えながら話す	
1	2	3	4	5

## 資料3：事後アンケート

今回の授業に関してお答えください。成績評価には関係ありません。思ったとおりに回答してください。				
1. スピーチ発表				
(1) 内容：提言（問題解決）のスピーチ				
非常にやりにくい				とても良い
1	2	3	4	5
(2) 学んだこと・感想・意見				
2. プレゼンテーション発表				
(1) 内容：対照比較のスピーチ				
非常にやりにくい				とても良い
1	2	3	4	5
(2) 学んだこと・感想・意見				
3. 即興スピーチ（2分スピーチ）				
(1) テーマについて				
① ワクチンパスポート				
非常にやりにくい				とても良い
1	2	3	4	5

②ペットの飼育放棄				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
③顔認証カメラの検知対象（出所者・仮出所者）				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
④出生前検査				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
⑤つながらない権利（勤務時間外の対応）				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
⑥安楽死				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
⑦漫画海賊版サイト				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
⑧外国籍住民投票				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5
(2) 即興スピーチ（2分スピーチ）の10分の準備時間				
少なすぎる				
1	2	3	4	5
(3) 即興スピーチ（2分スピーチ）の10分のピア活動				
全く役に立たなかった				
1	2	3	4	5
▶その理由をお聞かせください。				
(4) 期末テスト（2分スピーチの集大成）				
テーマ：少年犯罪の実名報道				
非常にやりにくい				
1	2	3	4	5



(5) 即興スピーチ (2分スピーチ) で学んだこと・感想・意見  
(やりにくかったテーマの理由や良かったテーマの理由などもお聞かせください。)

4. 今学期を通して

(1) 人前で話す自信がついた

全くそう思わない				そう思う
1	2	3	4	5

(2) 発音に気をつけるようになった

全くそう思わない				そう思う
1	2	3	4	5

(3) 自分の意見を述べる自信がついた

全くそう思わない				そう思う
1	2	3	4	5

(4) 話の構成を考えながら話すようになった

全くそう思わない				そう思う
1	2	3	4	5

(5) 学んだこと・感想・意見

#### 資料4：ニュースの出所

第2回「ワクチンパスポートについて」 テレ朝 news「イタリア ワクチンパスの義務化開始」更新日 2021年8月7日, <a href="https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000224812.html">https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000224812.html</a> (最終閲覧日 2021年10月7日) テレ朝 news「全労働者に『ワクチン接種証明』を義務化」更新日 2021年9月17日, <a href="https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000229199.html">https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000229199.html</a> (最終閲覧日 2021年10月7日)
第3回「ペットの飼育放棄について」 日テレ NEWS24「コロナ禍でペットブーム 飼育放棄が相次ぐ」更新日 2021年2月1日, <a href="https://www.news24.jp/articles/2021/02/01/07814332.html">https://www.news24.jp/articles/2021/02/01/07814332.html</a> (最終閲覧日 2021年10月14日) NCC長崎文化放送「ゴミ袋に入れて捨てられた4匹の子猫救出も…」更新日 2021年6月15日, <a href="https://www.ncctv.co.jp/news/90084.html">https://www.ncctv.co.jp/news/90084.html</a> (最終閲覧日 2021年10月14日)
第4回「顔認証検知の出所者対象について」 NHK NEWS WEB「JR 顔認証検知対象に過去の重大犯罪者含むも指摘受け外す」更新日 2021年9月22日, <a href="https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210922/k10013271261000.html">https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210922/k10013271261000.html</a> (最終閲覧日 2021年10月21日)

第5回「出生前診断について」
FNNプライムオンライン「『出生前』前妊婦に周知へ”約20年ぶり”に方針を転換」、更新日2021年3月17日、 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=S2Wbul-Uw8A">https://www.youtube.com/watch?v=S2Wbul-Uw8A</a> （最終閲覧日2021年10月28日）
第9回「つながらない権利について」
フジテレビ「ワイドナショー」2021年10月17日（10:45～10:46）放送録画
第10回「安楽死について」
FNNプライムオンライン「ニュージーランド安楽死合法化へ 国民投票で賛成多数」更新日2020年10月31日、 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=e3C6Z5mDujk">https://www.youtube.com/watch?v=e3C6Z5mDujk</a> （最終閲覧日2021年12月2日） スライド：ABEMA TIMES「日本人は“死にたい”と訴える患者と正しく向き合えるのか…闘病生活の末に安楽死を決断した女性と考える」更新日2021年1月30日、 <a href="https://times.abema.tv/articles/-/8644234">https://times.abema.tv/articles/-/8644234</a> （最終閲覧日2021年12月2日）
第11回「漫画海賊版サイトについて」
NHK NEWS WEB「漫画海賊版サイト『漫画 BANK』に集英社など4社が法的措置へ」更新日2021年11月14日、 <a href="https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211114/k10013347781000.html">https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211114/k10013347781000.html</a> （最終閲覧日2021年12月7日）
第12回「外国籍住民投票について」
NHK NEWS WEB「東京 武蔵野“外国籍住民も同じ条件で参加”住民投票条例案」更新日11月19日、 <a href="https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20211119/1000072792.html">https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20211119/1000072792.html</a> （最終閲覧日2021年12月16日）
第15回期末テスト「少年犯罪の実名報道」
NHK NEWS WEB「甲府 住宅放火2人死亡 逮捕の少年は30キロ離れた駐在所に出頭」更新日2021年10月14日、 <a href="https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211014/k10013306271000.html">https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211014/k10013306271000.html</a> （最終閲覧日、2022年1月20日） 画像資料：中日新聞 WEB版「18、19歳厳罰化必要？ 少年法改正への法制審原案」2020年8月12日、 <a href="https://www.chunichi.co.jp/article/103404">https://www.chunichi.co.jp/article/103404</a> （最終閲覧日2022年1月20日）